

和歌山の図書館の未来

渡部 幹雄

1. はじめに

日本の図書館は1950年の図書館法制定から特徴的な広がりを見せている。表1のように同じ社会教育施設であっても同時期に各関連法の位置付けを得ても農山漁村部まで爆発的な展開を見せた公民館とは対照的である。

表1 社会教育施設の推移

年	公民館数	図書館数	博物館数
1955年	35,352	742	239
1963年	19,417	810	294
1971年	14,249	917	375
1987年	17,440	1,801	737
1996年	17,819	2,396	985
2008年	16,566	3,165	1,248
2011年	15,399	3,274	1,262

文科省社会教育調査より 渡部作成

図書館は都市から漸次緩やかに普及するという都市型施設としての展開の経路を辿る。但し、都市地域以外の農山漁村地域にあってもこれまでの日本の図書館の展開の中にも成功事例も存在する。只、多くの町村の図書館普及の歩みは表2のように緩慢で図書館空白の自治体も多く存在する。図書館の未設置自治体は殆どが郡部に存在するが、未だに大幅に状況は改善されていない。

表2 町村立図書館の設置数・設置率の推移

年	町村自治体数	図書館数	設置率
1984年	2,604	406	15%
1993年	2,576	627	24%
1998年	2,562	885	35%
2003年	2,523	1,007	39.9%
2004年	2,405	998	41.5%
2005年	1,656	772	48.6%
2006年	1,041	537	51.6%
2007年	1,022	530	51.9%
2008年	1,005	526	52.3%
2015年	928	511	55.1%

『日本の図書館：統計と名簿2015』日本図書館協会より作成

そうした和歌山県の条件下に近い環境での先進事例や国際的な動向から比較することで農山漁村地域が広がる和歌山の未来の図書館の姿を語ることにしたい。

2. 和歌山県の図書館の現状

・図書館設置率

和歌山県内の図書館の未来を考える場合には県下の現状の図書館を把握する必要がある。表3のとおり、和歌山県内の市町村の図書館設置率は市においては100%、町においては43%、村においては0%となる。市の数値は全国平均の99%に近い数値であるが、町村の場合には全国平均の町の67%と村の23%の数値に対しては大きな格差となっている。町にあっては約56%の自治体で図書館の空白状態、村にあっては図書館が設置されていない状況にある。

表3 図書館設置率

	市	町	村
全国	99.8%	67%	23%
和歌山県	100%	43.3%	0%

『日本の図書館：統計と名簿2015』日本図書館協会より作成

図書館設置率では市町村全体でも全国平均を下回っている。図書館未設置の自治体では1950年に図書館法が制定以来、当該の自治体において図書館サービスが66年間経過しても実施されていない現状である。

・設置自治体の各図書館の規模

表4は設置自治体の状況を示すものである。項目毎に見てみると床面積は和歌山市民図書館が7,278㎡と岩出市3,700㎡が突出している。職員は専任職員よりは非常勤・臨時（委託派遣）が多い傾向にある。蔵書数は市にあっては20万冊を超える傾向にあるが町立図書館にあっては有田川町を除いて10万冊以下となっている。

・和歌山県内の図書館サービスの状況

図書館の活動評価は一般的には住民一人当たりの年間貸出冊数で評価されるが各自治体を個別に見てみると全国平均の年間貸出冊数5冊を超える自治体は岩出市のみとなっている。

1950年に図書館法は公布されたが1971年における全国の市町村立図書館の状況では19.5%の自治体が図書館を設置しており、和歌山県内の市町村立図書館の設置率14.3%となっている。当時の時点では全国でも和歌山県内であっても大半の自治体では図書館が未設置の状態だった。その後前掲の図表から窺えるように急速に図書館が新設された。21世紀を迎えた平成の大合併前の2001年の和歌山県下の図書館設置の状況では、50市町村中に20自治体が図書館を設置しており、その時点の設置率は40%であった。当時の設置率においても全国平均の51.5%設置率には届かなかった。その後平成の大合併を経た2015年時点でも全国平均の設置率の水準にある市は別にして、小規模な自治体の町村立図書館の設置率は全国平均を大きく下回っている。これは他の都道府県に比して単に設置率が低いという点だけでなく、離島・半島域の自然環境上の課題も見逃せない。離島・半島域では近隣の自治体へ交通アクセスが山間地や海岸部が大半を占めるという特殊事情から他の平地間移動とは大きく事情が異なる。離島域と同様に陸の孤島と

表 4

図書館名	延床面積 (㎡)	専任人口 (千人)	職員			蔵書冊数 (千冊)		受入図書冊数		雑誌購入種数	個人貸出貸出数 (千点)	前々年度決算額 (千円)		
			専任計 (兼任計)	うち司書司書補佐 (兼任)	非常勤臨時・委託派遣	蔵書冊数	うち開架図書	受入冊数	うち購入			図書館費	資料費	
													総計	うち図書費
有田市図書館	520	31	1 (2)	1	3	78	41	3,485	2,876	31	72	19,056	4,092	3,633
岩出市立岩出図書館	2,848		5 (2)	2	2 (12)	239	190	15,501	14,822	164	330	100,932	28,508	24,571
岩出市立駅前ライブラリー	802				1	*	*	*	*	*	*	*	*	*
(サービスポイント)	<3>					15		420			14			
(計2館)		53	5 (2)	2	3 (12)	239	190	15,501	14,822		330	100,932	28,508	24,571
海南市下津図書館	727		2	1	4	84		3,679	3,562	84	176	31,041	8,401	7,363
海南市児童図書館	212				3	25		1,226	1,194	3	*	*	*	*
(計2館)		55	2	1	7	109		4,905	4,756		176	31,041	8,401	7,363
紀の川市立打田図書館	873		3	3	4	222	198	7,953	6,855	95	255	20,472	14,780	11,960
紀の川市立那賀図書館	140				1	*	*	*	*	12	*	*	*	*
紀の川市立粉河図書館	206				1	*	*	*	*	12	*	*	*	*
紀の川市立桃山図書館	318				3	*	*	*	*	16	*	*	*	*
紀の川市立黄志川図書館	476				3	*	*	*	*	39	*	*	*	*
(計5館)		67	3	3	12	222	198	7,953	6,855		255	20,472	14,780	11,960
御坊市立図書館	589	26	1	1	5	81	60	3,353	3,001	58	106	16,016	4,046	3,330
(サービスポイント)	<1>					0		0			0		0	
新宮市立図書館	700	32	3	2	6	104	88	8,930	4,558	4	105	25,988	6,167	4,907
(自動車図書館)	<1>					8		1,054			12		673	
田辺市立図書館	2,004	80	8	3	13	245	171	11,713	10,497	101	381	49,526	20,597	9,831
(自動車図書館)	<2>													
(サービスポイント)	<4>					65		3,053			19		4,085	
橋本市図書館	1,400	67			11	140	140	4,588	4,302	43	203	43,017	8,064	7,195
(自動車図書館)	<1>										34		0	
和歌山市民図書館	7,289	380	10	8	23	440	149	13,944	13,159	104	692	126,944	29,559	23,605
(自動車図書館)	<2>					68		1,619			110		3,395	
有田川町立金屋図書館	534	27.6	-5	-2	2	173	33	9,566	8,145	66	310	52,602	12,180	11,388
(自動車図書館)	<1>					5					8		0	
(サービスポイント)	<4>					136		7,450			270		0	
かつらぎ町立図書館	427		-5		4	65	39	1,441	1,299	40	51	9,550	2,681	2,200
かつらぎ町立図書館花園分館	57		-2		@	4	4	110	67		@	*	*	*
(計2館)		18.4	-7		4	69	43	1,551	1,366		51	9,550	2,681	2,200
上富田町立図書館	293	15.3			3	59	38	4,024	1,588	21	40	9,841	2,500	
串本町立図書館	605	18.2	-2	-1	4	37	26	1,146	1,135	13	28	14,211	2,162	1,250
(自動車図書館)	<1>					1		0			4		0	

『日本の図書館：統計と名簿 2015』日本図書館協会より作成

も言える状況下では、移動が容易な他地域の図書館空白地帯とは前提条件を異にする。周辺の図書館設置自治体の協力を遮蔽する自然環境にあっては全くの図書館空白地帯となっている。都市部の図書館設立過程で散見された周辺の自治体の設立への波及効果も期待できない実情である。しかも 1950 年の図書館法制定から既に 70 年近い歳月が経過したが図書館未設置の町村の図書館振興策の有効な方策が打ち出せない状況でもある。そのような状況下に和歌山県内の図書館も置かれているのが現状である。

3. 図書館設立と財政規模

離島・半島域での図書館設置の小規模自治体での設置率の低い点について述べてきたが小規模自治体で図書館設置事例として富山県舟橋村及び北海道の置戸町の事例を紹介する。

図書館未設置の小規模自治体の多くが財政難を理由に図書館設置しないことが予想できる。しかしながら人口が各約3,000人の財政規模の富山県舟橋村や北海道置戸町においては表5のように和歌山県内の複数の都市を上回る規模の床面積を有する。また、和歌山県内の総ての町立図書館においては舟橋村立図書館や置戸町立図書館を凌ぐ床面積を有する自治体は存在しない。更に和歌山県内の都市の千㎡未満の図書館が数館存在するが、それ以上の規模の町村立図書館は全国的には多数存在する。このことを考慮すると図書館未設置の理由が財政上の理由にだけに止まらなると考えられる。これは多くの図書館未設置自治体において図書館未設置の理由は財政難が決定的な理由でないことを示すもので特筆することである。前述の和歌山県下全体の図書館設置率や学校図書館司書配置率の状況において2015年現在でも全国平均を大きく下回っている。これらからも、和歌山県内の図書館を取り巻く環境は厳しい状態にあり、設置されている既存の図書館の利用状況からも周辺への図書館発展に繋がる環境の整備が急務である。

表5 図書館の面積比較

自治体名	図書館床面積	人口
富山県舟橋村	1,367㎡	3,100人
北海道置戸町	1,398㎡	3,200人
御坊市	589㎡	26,000人
新宮市	700㎡	32,000人
有田市	520㎡	3,100人
海南市	939㎡	55,000人
橋本市	1,400㎡ *同規模	67,000人

『日本の図書館：統計と名簿2015』日本図書館協会より作成

4. 最近の図書館事情

1950年以降の日本の図書館流れが図書館の経営に色濃く反映されている。最近の図書館を大きく区分すると次の5つのタイプに分けることができる。

- ① 保存・管理型
- ② 児童・貸出中心型
- ③ 滞在志向型
- ④ 集客機能中心型
- ⑤ 法令・図書館理念順守型

1950年の図書館法制定から1970年の『市民の図書館』刊行の時期までは図書の保存・管理に運営がされた。1970年以降は1963年に刊行された『中小都市における公共図書館の運営』の理念と重点的に取り組まれた児童サービスと貸出中心の運営がされた。その後1990年前後から図書館の居心地感と快適性も追求され滞在志向型の図書館も登場する。その後2010年前後から多様な図書館活動に

も活動が広がり賑わい空間に力点を置いた館も目立つようになる。更に近年の傾向としては課題解決やまちづくり活動にも軸足を置く館も登場しつつある。しかしながらこれらの活動が総ての図書館での展開となっているのではなく、館によつての軸足の置き方が前述5つのタイプに置いた運営となつて各館を特徴付けている。それは即ち図書館活動の各館の捉え方に左右される。大半の館は図書館活動を一部の機能に特化した機能的な図書館の範疇となっている。その各館の実際の活動の姿が多様な図書館像を作り出している現状にある。それは図書館法や国際的に認知されている図書館の姿とはかけ離れた矮小化された姿でもある。その格差是正のための然るべき振興策も当然に必要なものである。

5. 和歌山県の図書館の未来

和歌山県の図書館の未来の姿を描くとすれば、現状の課題解決が求められ、世界的な視点に立った理念の履行の上での国内外の平均値以上の利用水準に到達することを目標とすることは当然である。その理念となるユネスコの公共図書館宣言は以下のとおりである。

ユネスコ公共図書館宣言 1994年では、その理念を

公共図書館は、その利用者があらゆる種類の知識と情報をたやすく入手できるようにする、地域の情報センターである。公共図書館のサービスは、年齢、人種、性別、宗教、国籍、言語、あるいは社会的身分を問わず、すべての人が平等に利用できるという原則に基づいて提供される。理由は何であれ、通常のサービスや資料の利用ができない人々、たとえば言語上の少数グループ（マイノリティ）、障害者、あるいは入院患者や受刑者に対しては、特別なサービスと資料が提供されなければならない。いかなる年齢層の人々もその要求に応じた資料を見つけ出せなければならない。蔵書とサービスには、伝統的な資料とともに、あらゆる種類の適切なメディアと現代技術が含まれていなければならない。質の高い、地域の要求や状況に対応できるものであることが基本的要件である。資料には、人間の努力と想像の記憶とともに、現在の傾向や社会の進展が反映されていなければならない。蔵書およびサービスは、いかなる種類の思想的、政治的、あるいは宗教的な検閲にも、また商業的な圧力にも屈してはならない。公共図書館の使命、情報、識字、教育および文化に関連した以下の基本的使命を公共図書館サービスの核にしなければならない。

と述べて下記の12項目を具体的な取り組みを「公共図書館の使命」として挙げている。

1. 幼い時期から子供たちの読書習慣を育成し、それを強化する。
2. あらゆる段階での正規の教育とともに、個人的および自主的な教育を支援する。
3. 個人の創造的な発展のための機会を提供する。
4. 青少年の想像力と創造性に刺激を与える。
5. 文化遺産の認識、芸術、科学的な業績や革新についての理解を促進する。
6. あらゆる公演芸術の文化的表現に接しうるようにする。

7. 異文化間の交流を助長し、多様な文化が存立できるようにする。
8. 口述による伝承を援助する。
9. 市民がいかなる種類の地域情報をも入手できるようにする。
10. 地域の企業、協会および利益団体に対して適切な情報サービスを行う。
11. 容易に情報を検索し、コンピューターを駆使できるような技能の発達を促す。
12. あらゆる年齢層の人々のための識字活動とその計画を援助し、かつ、それに参加し、必要があれば、こうした活動を発足させる。(日本図書館協会ホームページより一部抜粋)

以上に掲げられた条項は総ての図書館活動の根幹であり、一部分を省いた機能的な道を歩もうとしても図書館の本道からかけ離れて「似て非なる図書館」となり国際水準には到達しない。これらの12項目の履行は和歌山の未来の図書館に欠かせない。

最後に具体的な和歌山の未来の図書館像を既に世界各地で取り組まれている事例を参考に提案する。なお、提案する図書館は基礎単位図書館・中核図書館・調整図書館で構成される。基礎単位図書館は日常的な生活圏域のコミュニティの中心として位置づけ中学校区内に配置する。中核図書館は広域地域の中心図書館である。中学校が一枚であれば基礎単位図書館と中核図書館は兼用の位置づけである。調整図書館は中核図書館や基礎単位図書館を支援する文書館機能も持つバックアップ図書館であり、図書館の為の図書館に徹する。和歌山の未来の図書館の各図書館の規模は表6のとおりである。

◆46

表6 各図書館の規模と対象エリア

区分	対象エリア	蔵書数	床面積	正規専門職員数
基礎単位図書館	中学校区	15万冊	1,500㎡	・5人～10人 ・司書 ・サブジェクトライブラリアン
中核図書館	広域地域の中心図書館	50万冊	5,000㎡	・20人 ・サブジェクトライブラリアン(修士以上)
調整図書館	県内の全域	300万冊	30,000㎡	・50人 ・サブジェクトライブラリアン ・アーキビスト(修士以上)

基礎単位図書館は概ね中学校区に配置され、図書館サービスの最前線であり、中核図書館及び調整図書館は基礎単位図書館を支援するための保存志向型図書館である。設置主体は基礎単位図書館が市町村、中核図書館が市若しくは広域行政組織であり、調整図書館は県が設置する。サービスの分業化がされ中核図書館や調整図書館では閲覧とコピーサービスが中心で貸出等の業務は基礎単位図書館を通して連絡便を通して実施される。

基礎単位図書館の館内構成と機能は次の表7のとおり。

表7 基礎単位図書館の構成と運用イメージ案

区分	機能	利用のイメージ
1 管理・保存	事務・管理	デスク・管理機器・防災
	企画・研究	ワーキング工房
	アウトリーチ拠点 稼働型広域対応機能 拠点型広域対応機能	学校支援コーナー BM 各地区連絡拠点
2 交流・展開	保存書庫 開架書庫 貴重書庫 連絡・調整書庫 マイクロ庫 防虫・防黴対応前室	蓄積拠点・電動書庫 利用調整機能 空調・除湿 広域と効率化 保存年限の対応 資料保護
	ラウンジ	サードスペース機能
	集会・交流 ラーニングコモンズ グループスタディ アクティブラーニング 寛ぎスペース 創作活動スタジオ 地域情報発信拠点 情報交流スペース 展示スペース 郷土を知るスペース 芸術交流スペース YAコーナー PCラウンジ 研究キャレル ピアノコーナー カフェコーナー 異分野交流コーナー 創作コーナー	結び繋ぐ機能 学習の多様化に対応 自主活動育成・少人数学習 各メディア利用 畳や絨毯の設え・飲食 作曲・機器利用 GIS利用で地域情報発信 伝言板活用 書画・写真・原画等の展示 ボックス型ファイル 立体の作品等の展示 青少年向け資料 インターネット・Wi-Fi 個人ブース ライブラリーコンサート 障がい者の社会参加 異業種交流会イベント 知的生産ツールを活用
3 児童	児童開架スペース	低書架・児童関連資料群
	赤ちゃん絵本 紙芝居 絵本 読み物 児童向けマガジン 赤ちゃんラウンジ 子育て支援コーナー 幼児ラウンジ 語りとお話スペース	文字無し絵本等 紙芝居架 表紙見せ架・低書架 低書架 小学生新聞 授乳室・おむつ替え設え 子育て関連資料・デスク 室内知的遊具 おとぎの空間演出
4 一般	一般開架室	高書架・各ゾーン構成
	地元学コーナー グループ支援コーナー 地域・行政コーナー 暮らしと生活のコーナー レファレンスコーナー フローワークステーション 逐次刊行物コーナー 地図コーナー 楽譜コーナー 郷土の人コーナー ビジネス支援コーナー マイクロフィルムコーナー 起業コーナー 電子書籍コーナー 視聴覚コーナー 大活字コーナー 食と農コーナー 多文化コーナー レコードコーナー 自治区コーナー 校区コーナー 文化財コーナー ジオパークコーナー 祭事コーナー 雑誌コーナー 新聞コーナー 特産物コーナー 水環境コーナー 地域資源活用コーナー	地元を深く知るツール空間 団体活動紹介ファイル群 地域に関する刊行物 暮らしに関係する書籍展示 質問対応・利用案内 クイックレファレンス対応 季刊・年刊・ムック等 地形図・道路図等 ジャンル毎に配列 熊楠・空海・著者等 ジャンル別のビジネス情報 マイクロリーダー 起業関係資料・国縣市刊行 利用者端末の充実 各メディアに配慮 老人等向けの家具 農林水産業関連の充実 各国言語対応 回想法と関連資料及び資料 各自治会情報ファイル群 各学校区単位情報資料 文化財話題の速報等の情報 ジオパーク関連の全国情報 市内各祭事の情報資料 週刊・月刊誌 主要各紙・地元誌・スポーツ 特産品の資料群 各水系情報と災害史資料 地元や話題の資料